

海外アドバイザー参加で初の東アジア地域交流会議



「足りない」と感想が出ている。いろいろな所に連れて行ってやりたい。研修生たちが2度、3度と来たくなるように頑張りたい」（キムさん）、「真っ白い雪がとてきれいな町。黒龍江省の青年をどんどん東川町に案内したい。観光客誘致でもつながっていききたい」（賀さん）、「食べ物日本の食材として当てると思う。漬物も非常においしい。上海で売りたい」（呉さん）などと積極的な意見が続出しました。

協議会は、海外に向けて町内の特産品販売促進、観光、日本語（文化）研修の受け入れ促進を図るため、海外重点地域の情報を町内に伝え調整します。4月25日、町、町教育委員会、（社）ひがしかわ観光協会、（学）北工学園、（株）東川振興公社、（株）西川食品、（有）アグリテックの各社（団体）で発足しました。情報の相互交換を重ね、本町製品の販売促進、観光・研修生受け入れ支援などに協力をしていただきます。

海外アドバイザー8人は次の通り。
（敬称略、順不同）

- 〔韓国〕▼河承賢（ハ・スンヒョン）
- IIアジアの平和と歴史教育連帯国際協力部長II▼金廷宣（キム・ジョンソン）
- II E J C 外国語学院院长II▼柳光錫（ユ・クアンソク）
- II ノリのり王国明洞店長（土産品店）
- 〔台湾〕▼富田恭敏II新高通顧問（株）社長II▼大隈千晶IIエフ産業（株）台北

- 駐在事務所長II▼方紹安（ホウ・シヨアン）
- II台湾中央研究所アシスタントII
- 〔中国〕▼賀業祥（ガ・ギョウシヨウ）
- II黒龍江省祥業職業技能培训学校校長II▼呉奇（ゴ・キ）
- II石狩水産品有限公司代表（上海）

春のよさを、楽しむ

6月26、27の両日、キトウシ森林公園で第52回くらし楽しくフェスティバルが開かれました。1日目はあいにくの雨天に見舞われましたが、2日目は最高気温約13度とやや肌寒いものの好天が戻って会場は大にぎわい。道路も渋滞となるほどの人出で込み合いました。



も16人の大所帯で会場内を景気づけしてくれました。札幌の新芸能集団「乱拍子」の迫力満点の和太鼓、大道芸には観客の輪が十重二十重に出来て見事な演技に拍手いっぱい。多くの投げ銭が飛んでいました。

農家直売のテントには、花と野菜の苗販売やフキ、ヤマワサビ、ウド、アイヌネギ、露地アスパラなど新鮮な春の山菜、野菜もずらりと並びました。恒例のリサイクル市も相変わらずの人氣ぶり。成長が早い子供用の服やおもちゃを買いたい家族連れが早い者勝ちの掘り出し物を捜し求めていました。今年も旭川北高校吹奏楽部が来場出演。旭川のチンドン屋「春月」の皆さま

野口雨情の孫、新発見の葉書の足跡を辿って旭岳温泉下

戦前活躍した詩人、故野口雨情（1945年、62歳で死去）が、旭川在住の新聞記者時代を懐かしんで1927（昭和2）年に旭川から投函した葉書がこのほど見つかり、6月15、16の両日、北茨城市在住の野口不二子さん（66）が松岡市郎町長に新たな発見を報告するため旭岳温泉を訪れました。不二子さんは野口雨情の直系の孫。同市内の野口雨情の生家で、「野口雨情生家・資料館」の館長として生前の資料保存、研究を続けています。

昨年3月の東日本大震災で津波被害後、生家の2階に避難させた資料の中にまぎれていたそうです。資料を整理し直し、85年前に旭川から投函された



松岡市郎町長に葉書の内容を説明する不二子さん（中央）

葉書であることが初めて分かったそうです。当時旭川にあった新聞社、北海タイ

ムス社が開いた「第2回大雪山夏期大雪山」の講師として旭川を再訪し、その時に大雪山にも登って帰り際に書かれたもの。消印が消失していましたが、ようやく昭和2年であることが分かって、友人8人と一緒に足跡をたどってきました。

「大雪山に登って、そのあと旭川で講演していることが分かりました」などとうまく判明した雨情と大雪山のつながりに思いをはせました。

葉書は、すでに離婚していた妻、ひるさん（後に復縁）にあてたもので「旭川は八月一日には立ちます。雅夫が『いかな〜』とゆったああたりは、昔の倅（おもかげ）はありま

すが、たづぬるよすがもなきほど変わりました。」とあり、かつて一家3人で暮らしていたころを懐かしんでいる便りです。

「雅夫が『いかな〜』とゆったああたり」とは、かつて住んでいた現在の旭川市1条5丁目あたり。「（旭川から転出する時）雅夫（雨情の長男で当時4歳。不二子さんの実父）が『行かない、行かない』と離れることを嫌がっていたが、昔の面影を探すきっかけもないほど変わってしまいました。」と書かれています。

雨情は、1906（明治39）年に来道。翌年の25歳から27歳まで3年間、札幌、小樽、室蘭、旭川の6新聞社で新聞記者を勤めました。

夏山シーズンの開幕、旭岳が山開きの

6月16日、大雪山の夏山シーズンが幕開けしました。旭岳温泉街（標高千110㍎）で山の祈願祭とアイヌ民族の儀式「ヌプリコカムイノミ」を行い、山の神に夏山の安全と無事故を祈りました。

旭岳ロープウェイ山麓駅で祈願祭を行い、地元旭岳温泉街の関係者ら約80

人が山の安全を祈願しました。メイン行事はアイヌ民族の山の儀式「ヌプリコカムイノミ」。アイヌ伝統の儀式で山の神に山の安全を祈りました。チカップニアイヌの皆さんが車座になって山の神にお神酒を捧げ、ヌプリコカムイノミの儀式を行いました。

部族の女性が鶴の舞いなどを披露。酋長がご神矢を放って山の無事安全を祈願しました。最後に会場全員でファイアーストームを囲んで舞い踊り、夏山の短い山開きを祝いました。

